

提出日： 2024 年 7 月 1 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
経済学部	教授	黒須 詩子

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。
	1. 2023年4月 1日 ～ 2024年3月31日
	2. 2023年9月 1日 ～ 2024年8月31日
	3. 2023年4月 1日 ～ 2023年9月20日
	4. 2023年9月21日 ～ 2024年3月31日
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。
	2023年5月岐阜市金華山付近で、でムネアブラムシ <i>Nipponaphidini</i> の2次寄主世代を採集した。ツブラジイで <i>Metanipponaphis shiiae</i> をサンプルした。
	2023年10月、11月に東京都多摩市でエゴノネコアシアブラムシの繁殖行動を観察した。
	2023年12月と2024年1月に、櫃原市で、ムネアブラムシの2次寄主世代を採集した。主に、アラカシ上で <i>Dermaphis japonensis</i> をサンプルした。
得られた研究成果について	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。
	1. これまでのムネアブラムシ族についての研究結果の一部として、 Japanese Journal of Systematic Entomology 日本昆虫分類学会誌（2023年12月）に、クスノキ科イヌガシに寄生するイスアブラムシの仲間を新種として記載した。 Description of a New Species of the Aphid Genus <i>Schizoneuraphis</i> (Hemiptera) from Southern Japan, with special reference to the Long flagelliform labrum of the first-instar exule (Aoki, S, U. Kurosu, U., T. Fukatsu, M. Kutsukake)。第2著者である。
	2. イスノフシアブラムシの有性世代の脱皮回数について、オスは2回、メスは4回皮するということを明確にした。 Japanese Journal of Entomology 昆虫（ニューシリーズ）vol 26 に、 Number of molting in the dwarfish sexuals of the aphid <i>Nipponaphis distyliicola</i> (Hemiptera). Utako Kurosu and Shigeyuki Aoki. として発表した。第1著者である。
	3. また、これまでの研究成果の一部を、 Galls of the Aphid <i>Tuberaphis coreana</i> (Hemiptera) found on <i>Styrax japonicus</i> in Japan (日本昆虫分類学会誌 <i>Japanese Journal of Systematic Entomology</i> , 30 (1): 89–98. July 15, 2024) (Aoki, S, U. Kurosu, K. Uematsu, T. Fukatsu, H. Ogawa, M. Tokuda, M. Kutsukake) として発表した。第2著者である。

今後の 計画に ついて	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。
	得られたムネアブラムシのサンプルは、塩基配列の解析に使うことにより、今後本グループの系統関係の考察に貢献すると考えられる。 エゴノネコアシアブラムシ <i>Ceratovacuna nekoashi</i> の有性世代が餌を取らずに成虫になるという事実は、不明な点の多いツノアブラムシ類生活史の情報を埋める上で重要であり、記載する価値があるので、論文として発表する予定である。